「腎臓内科を常設しました」

これまで、当院腎臓内科は、今年６月までは非常勤体制でしたが、７月から２名の常勤医が赴任し、より充実した腎臓診療を行えるようになりました。

腎臓は、肝臓とともに「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状が出にくく、気づいた頃にはすでに進行しているケースも多いです。

現在、日本では「約８人に１人が慢性腎臓病（ＣＫＤ）」と言われており、新たな国民病として認知されてきています。慢性腎臓病は、進行することで、最終的に末期腎不全に至ります。そうなった場合、人工透析や腎移植などの治療が必要になります。そうならないためにも、早期発見が重要であり、尿検査や血液検査が有用です。定期的に健康診断などを受け、尿蛋白、尿潜血、腎機能障害などの異常を指摘されれば当科に相談してください。そういった人の次の検査として腎生検があります。腎生検とは、腎臓の組織を一部採取しそれを顕微鏡でみることで、どのような腎臓病であるかを診断するものです。すべての人が対象になるわけではありませんが、正確な診断を得ることで、適切な治療ができ、腎臓病を抑え込めることもあります。これまでこの検査は奈良医大に紹介していましたが、今後は当院でも行えるように体制を整えていきます。

また、すでに慢性腎臓病の状態や、ある程度進行してしまっている人も、適切に対応することで末期腎不全に至る時期を先延ばしにできる可能性があります。現状残念ながら「腎臓をよくする」薬はありませんが、「腎臓の負担を和らげる」薬はあります。それらを用いながら、患者さんには食事や運動療法に取り組んでいただき、私たちも協力して慢性腎臓病治療に取り組んでいきます。

腎臓内科　副医長　　深田　文裕